

平成24年度厚生労働科学研究費補助事業・岩手県周産期医療関係者スキルアップ事業・岩手県立病院医学会事業合同開催

平成24年度

いわて周産期医療フォーラム

入場
無料

in遠野

日時 平成25年

2月3日(日) あえいあ遠野

場所

10:00~16:00
(9:30開場)

交流ホール

[遠野市新町10-1/TEL:0198-60-1700]

《午前の部Ⅰ》 10:00~11:00

助産師スキルアップセミナー

** 岩手県立病院医学会講座 **

[講演] 『胎児心拍数モニタリング講座 ~大事なサインを見逃さない~』

講師: 藤森 敬也 氏 (福島県立医科大学医学部産婦人科学講座教授)

《午前の部Ⅱ》 11:10~12:40

助産師・救急隊セミナー

** 岩手県周産期医療関係者スキルアップ研修事業 **

[講演] 『新生児蘇生法(NCPR)普及事業の現状と今後の課題』

講師: 田村 正徳 氏 (日本周産期・新生児医学会理事長)

(埼玉医科大学総合医療センター小児科教授兼総合周産期母子医療センター長)

※上記講演は、日本周産期・新生児医学会が認定する新生児蘇生法講習会2010年版アップデート講習に該当します。

《午後の部》 13:45~16:00

周産期医療フォーラム

「平成24年度厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業」
** 震災時の妊婦・褥婦の医療・保健的課題に関する研究 **

テーマ 『震災にも強い安産の里”いーはとーぶ”を目指して』

報告 「岩手県周産期医療情報システム“いーはとーぶ”による地域連携」

小笠原 敏浩 氏 (岩手県立大船渡病院 副院長)



[講演] 1 『宮城における震災前後の周産期統計を比較して』

菅原 準一 氏 (東北大学東北メディカル・メガバンク機構 地域医療支援部門 教授)

2 『原子力災害後の福島県の妊産婦に関する現状と今後の課題』

藤森 敬也 氏 (福島県立医科大学医学部産婦人科学講座 教授)

3 『遠野一大船渡一釜石の小さな命を守る周産期医療連携~大震災から見えてきたもの~』

小笠原 敏浩 氏 (岩手県立大船渡病院 副院長)

【主催】:平成24年度厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業)「震災時の妊婦・褥婦の医療・保健的課題に関する研究」

【共催】:遠野市/岩手県/岩手県医師会/岩手県産婦人科医会/岩手県立病院医学会

【事務局】:遠野市健康福祉部遠野健康福祉の里保健医療課 TEL:0198-62-5111(代表)】

プロ・グ・ラ・ム

開 場 9:30~

午 前 の 部 I 10:00~11:00 (60分) **岩手県立病院医学会講座**

助産師スキルアップセミナー

〔講演〕『胎児心拍数モニタリング講座～大事なサインを見逃さない～』

講師: 藤森 敬也 氏 (福島医科大学医学部産婦人科学講座 教授)

休 憩 11:00~11:10 (10分)

午 前 の 部 II 11:10~12:40 (90分) **岩手県周産期医療関係者スキルアップ研修事業**

助産師・救急隊セミナー

〔講演〕『新生児蘇生法(NCPR)普及事業の現状と今後の課題』

講師: 田村 正徳 氏 (日本周産期・新生児医学会 理事長)
(埼玉医科大学総合医療センター小児科教授兼総合周産期母子医療センター長)

※上記講演は、日本周産期・新生児医学会が認定する新生児蘇生法講習会2010年版アップデート講習に該当します。

休 憩 12:40~13:45 (65分)

午 後 の 部 13:45~16:00 (135分) 『平成24年度厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業』
震災時の妊婦・産婦の医療・保健的課題に関する研究

周産期医療フォーラム

テーマ 『震災にも強い安産の里”いーはとーぶ”を目指して』

(挨拶) ・東北大学 名誉教授 岡村 州博
東北公済病院 院長
・遠野市長 本田 敏秋

報告「岩手県周産期医療情報システム“いーはとーぶ”による地域連携」

小笠原 敏浩 氏 (岩手県立大船渡病院 副院長)



〔講演〕 1 『宮城における震災前後の周産期統計を比較して』

菅原 準一 氏 (東北大学東北メディカル・メガバンク機構 地域医療支援部門 教授)

2 『原子力災害後の福島県の妊産婦に関する現状と今後の課題』

藤森 敬也 氏 (福島県立医科大学医学部産婦人科学講座 教授)

3 『遠野-大船渡-釜石の小さな命を守る周産期医療連携～大震災から見てきたもの～』

小笠原 敏浩 氏 (岩手県立大船渡病院 副院長)

認定 シール交付 16:00~16:30

日本周産期・新生児医学会「新生児蘇生法講習会2010年版アップデート認定シール交付」



会場案内

あえりあ遠野

〒岩手県遠野市新町10-1
TEL:0198-60-1700(代)

《交通のご案内》

鉄道でお越しの場合

東北新幹線【新花巻駅】経由JR釜石線【遠野駅】下車徒歩8分

車でお越しの場合

東北自動車道花巻J.C.Tより釜石自動車道へ→釜石自動車道【宮守I.C】→【宮守I.C】より国道283号線を遠野方面へ約20分

2013年 (平成25年) 2月4日 (月曜日)

地 域 (18)

周産期医療 災害に強く

遠野でいわてフォーラム



「連携体制の構築を」 医師や教授が課題提言

周産期医療のスキルアップと普及啓発を図るための「いわて周産期医療フォーラムin遠野」は3日、遠野市新町のおえりあ遠野で開かれた。医療関係者ら約120人が出席。医師や大学教授が周産期医療の現状を報告し、連携体制構築や災害への備えなど今後の課題を提言した。

2012年度厚生労働科学研究費補助金・成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業の一環として実施。午前の部は助産師や救急隊へのスキルアップセミナーを行い、午後は「震災にも強い安産の里いわて」をテーマにフォーラムを開催した。

東北大東北メディアカ
ル・メガバンク機構地
域医療支援部門の菅原
一教授と福島県立医
大医学部産婦人科学
講座の藤森敬也教授
は、統計とアンケート
調査結果から震災前後
の変化と課題を指摘。
藤森教授は「放射線被
ばくについて科学的に
安全だというだけで
は、県民の安心につな
がらない。積極的な調
査と情報公開が必要」
と訴え、「地域拠点病
院を中心に、県内の産
婦人科医療施設が柔
軟に連携できる体制構
築が急務だ」と呼び掛
けた。

2012年度厚生労働科学研究費補助金・成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業の一環として実施。午前の部は助産師や救急隊へのスキルアップセミナーを行い、午後は「震災にも強い安産の里いわて」をテーマにフォーラムを開催した。

n 遠野

「産科連携 妊婦支えた」

岩手・震災時の周産期医療 実例報告

いわて周産期医療フォーラムが3日、遠野市で開かれ、岩手、宮城、福島各県の専門家が、東日本大震災の状況を踏まえながら、災害時の周産期医療の在り方を報告した。

大船渡病院(大船渡市)副院長の小笠原敏浩氏は、同院や釜石病院(釜石市)と連携していた遠野市助産院が震災後に健診などで妊婦の受け入れ機能を果たしたことを紹介。後方支援拠点の必要性を訴えた。

さらに、医療機関や市町村がイン

ターネットを通じて妊婦情報を共有する「岩手県周産期医療情報システム」が、市役所が被災した陸前高田市で妊婦の安否確認や保健指導などに貢献した点を挙げ、「災害に強いシステムだと実証された」と強調した。

■ 遠野でフォーラム

福島県立医大教授の藤森敬也氏は「(線量放射線被ばくに関して)妊婦に『安全』という話だけでは、『安心』にはつながらない。客観的科学的なデータを残しておくことが大切だ」と話した。

フォーラムは、厚生労働省の補助研究事業の一環で開かれ、岩手県内の助産師や救急隊員ら約100人が参加した。